

## 第4回 塩竈市地域公共交通会議 議事録

日 時：令和6年3月7日（木） 15：00～15：50

場 所：塩竈市役所3階北側委員会室

出席委員：千葉会長、長尾委員、鈴木委員、土井委員、郷家委員、平山委員、中村委員、植松委員  
長谷部委員、佐藤委員、浅野委員、本多委員、長峯委員、草野委員（計14名）

欠席委員：熊谷委員

事務局：塩竈市総務部政策課

### 1. 会議目的

本市におけるバス運行の検討課題整理と対策案について合意形成を図るもの。

### 2. 協議結果

事務局案として提示した、NEWしおナビバスへの回数券及びキャッシュレス決済について導入を進めることとした。また、運行ルートの再編についても検討を進めることとした。

### 3. 議事要旨

#### [協議事項]

- ・バス運行課題及び対策案について  
事務局から協議事項について説明

#### [質疑等]

会 長：事務局より説明があったが、説明内容について質問や意見があればいただきたい。

委 員：当会員からは乗り換えの継続乗車ができないかという意見が出ている。そのことについてどのように考えられるか。

事務局：乗り換えの継続乗車というのは、バスから一度降り、違う路線へ同日中に乗り換えることと捉えるが、その場合乗り換えだと示す証明の仕方が難しく、運転手の確認も負担となってしまうことが考えられる。そのため現時点でその考えはない。

委 員：先日、バスの運賃改定により利用者が5万人減るという内容が記載されたチラシが配られていたが、その数字の根拠は何か。

事務局：事務局として示していた数値は、実際に料金改定を行った他自治体の推移や本市の将来人口予測を参考とし算出している。

委 員：仮にそのくらい減少するのであれば、対策を検討していかなければならないと思う。

事務局：これまでの協議の中では、他市事例を参考に一定数の利用控えはいる前提で試算を行っていた。その上で今回示した対策案等により、利用控えを抑えるための取組を続けていきたいと考えている。

会 長：1月から取り組んでいる広告収入について、令和5年度の収入はいくらか。

事務局：令和5年度は3月から2枠分の収入を頂いているため2,600円の収入となる。

会 長：申込状況は8枠あるうち6枠ということだが、残り4枠の掲載はいつからか。

事務局：残りの4枠も3月下旬から掲載を始める。掲載期間が月の半分に満たないとその月は広告料が発生しないため3月中の収入はない。

会 長：令和6年度は10万円程度の収入があるのか。

事務局：その見込みである。

会 長：回数券について近隣市町と比較した場合、割引率に差はあるのか。

事務局：割引率は概ね近い数値である。10回分の料金で11回の乗車券としている市町が多い。

会 長：回数券の販売場所はどこを想定しているのか。

事務局：現金の取扱が発生すること、収入はバス事業者のものとして扱うことから、販売場所はバス車内及びバス事業者の事務所と考えている。

会 長：それ以外の場所での販売は想定していないのか。

事務局：その通りである。

会 長：キャッシュレスについて、バーコードを読み込むと予め金額が入力される仕組みであるとのことだが、子ども料金などは読み取る場所を変えるということか。

事務局：その通りである。2種類のバーコードを用意する想定としている。

会 長：キャッシュレスについて、前回会議の案から今回の案に変わった背景について教えてほしい。

事務局：キャッシュレス用のポータブル端末について事業者と運用について協議したところ、運転手の操作による負担増、金額入力間違いによるトラブルからの遅延リスクが課題として考えられた。それらを解決するため、まずは今回の案から導入を進めたいと考えていた。

会 長：運行ルート案の考え方について、現状は事務局の案であって、実際に市内スーパー等への接触は行っていないのか。

事務局：現時点ではまだ話をしていない。

会 長：ネーミングライツは、例えば〇〇店前というイメージか。

事務局：その通りである。

委 員：回数券の車内販売について、運転手対応となるがそれにより時間を要し、定刻通りに発車できないということも考えられる。販売所を増やすということはできないか。

事務局：販売場所を増やす考えはなかったが、バス遅延に繋がる可能性も考えられる。販売場所については検討したい。

会 長：例えば当初のみ販売箇所を増やすことの検討や、他自治体が導入した時の対応なども含めて可能な範囲で検討してほしい。

委 員：仙台市営バスをよく利用するが、車内販売をしてもスムーズに運行しているようだ。また、そもそもバスは遅れるという認識が利用者にはあると思っている。回数券の販売について、車内販売を行うことによる遅れはあまり気にしなくてもよいのではないか。

事務局：その認識を持つ利用者はいるのかもしれないが、事務局としては運行に遅れのないよう対策を考えたい。

委 員：停留所で待っているときに、次のバス到着予想時間がわかる設備など将来的に取り入れる検討はできないか。

事務局：現時点でもインターネット上で現在地が分かる仕組みは用意している。しかし、例えばスマートフォンを使い慣れていない方などは、停留所に設置された看板に表示されるような仕組みのほうが分かりやすいと思う。導入には費用を要すことから、費用対効果等と照らし合わせて検討したい。また、既存の仕組みについてはPRを続ける。

委員：乗り降りするとき、車高が変わるような車両の導入は検討できないか。

事務局：ノンステップを採用している例もあるが、すぐの導入は難しい。足腰の悪い方のため、今後の検討課題の一つとして考えたい。

会長：次年度はルートの再編について、まずは事務局からたたき台を示し検討を重ねるようなスケジュールを考えられている。ルート再編についての意見はないか。

委員：商業施設を回る場合、敷地内の安全なところで停車し乗り降りできるなど安全対策を徹底してほしい。

事務局：承知した。

委員：足腰の弱っている方は乗り降りで時間がかかっているようだが、車内で補助等しているのか。

事務局：車内は運転手の他に補助員などはいないため、介助は行っていない。

会長：特別支援学校のスクールバスであれば補助者が搭乗しているが、地域のコミュニティバスでは難しい状況である。

会長：他に意見や提案はないか。なければ事務局案のキャッシュレスと回数券の導入については、導入を前提に進めたい。

→意見なし

会長：残る課題については、本日事務局より考えを示したので、次回会議には具体的なたたき台を示し意見をいただきながらその後の導入に向けて検討していきたい。料金改定については引き続き市民へ周知をお願いしたい。以上で本日の会議を終了する。